

1 はじめに

- 国語教育学科では、国語教育分野をその中心的学問分野とし、その上で国際社会の一員である自覚をもち、母語としての日本語運用能力を主体的に高め、積極的に社会に貢献できる人材および社会の多様な場面に的確な対応をしつつ国語教育を実践できる人材を養成することを目指し、「国語教員養成コース」と「言語表現コース」の2つのコースを設置しています。体系的なカリキュラムを展開することにより、日本の伝統文化への理解を深めさせると共に、国際感覚を身につけさせ、母語としての日本語の運用能力を修得します。大きな特徴として、この日本語運用能力を高めるにあたって、論理的な思考力を基盤とする高度な言語技術の修得を重視しています。
- 「国語教員養成コース」では、国語教育の現場に立つための理論と実践を組み合わせた学びをとおして、言語文化に関する高度な日本語運用力と指導力を備えた国語科教員を養成します。「言語表現コース」では、コミュニケーションの基盤となる言語技術と論理的・批判的思考力を身につけ、的確な言語技術に基づいた日本語運用能力を備え、広く社会で活躍できる人材を養成します。

2 カリキュラム・ポリシー

- ① グローバル化に伴う言語や文化の多様性に対応できる資質・能力を育成し、批判的読解力・論理的思考力・表現力といった言語技術を身につけ、さらにその上に立って、豊かな言語観・文化観を備えた人材を育成することを目標としている。
- ② 社会に必要な言語技術と、論理的・批判的に思考する方法を修得するための科目群を用意する。また、それを基礎として、日本語・日本文学など言語観・文化観に関わる科目群、国語教育の指導法に関わる科目群、および、言語技術を高度化し、国際社会に貢献できる問題解決能力に資する科目群を設定する。
- ③ 各学年の学びの目標として「つかむ」・「つかう」・「のばす」・「たかめる」を設定し、さらに卒業後に自らの日本語能力を「きわめる」ことができる基礎をつくる。
- ④ 「国語教員養成コース」においては、中学校・高等学校の教育現場で指導ができるよう、言語技術の学習の基礎の上に、日本語や日本文学について専門的に学び、さらに国語科の指導法を修得できる効果的な国語教員養成プログラムを構築する。
- ⑤ 「言語表現コース」においては、現代のグローバル社会で活動できるよう、言語技術の学習の基礎の上に、確実な言語表現技法、豊かな言語観・文化観を身につけ、論理的批判的思考と表現の方法を修得することで高い問題解決能力を備えることができる言語表現教育プログラムを構築する。

3 卒業要件

国語教育学科では、以下の6つの条件を卒業要件として定めています。

- (1) 修業年限をみたすこと
- (2) 全科目の修得単位の合計が124単位以上であること
- (3) 累積GPAが2.00以上であること
- (4) ユニバーシティ・スタンダード科目より、次の必修科目および必修選択科目を修得していること
 - 〈必修科目〉 玉川教育・FYE科目群：国語教員養成コース・言語表現コース ともに「一年次セミナー101」「一年次セミナー102」「玉川の教育」「健康教育」「音楽Ⅰ」「音楽Ⅱ」人文科学科目群：「日本語学」
 - 〈必修選択科目〉 社会科学科目群・自然科学科目群・学際科目群：国語教員養成コース・言語表現コース ともに、3つの科目群の中から1科目2単位以上言語表現科目群：国語教員養成コース は「ELF101」「ELF102」「ELF201」「ELF202」「ELF301」「ELF302」「ELF401」「ELF402」(以下「ELF科目」) から2科目8単位以上言語表現コース はELF科目から2科目8単位以上およびELF科目「フランス語101」「フランス語102」「ドイツ語101」「ドイツ語102」「スペイン語101」「スペイン語102」「中国語101」「中国語102」を含んで12単位以上
- (5) 学科科目について、次の必修科目を修得していること
 - 〈必修科目〉 国語教員養成コース・言語表現コース ともに100番台科目：「言語表現入門A」「日本文学概論」「言語表現入門B」200番台科目：「キャリアセミナーA」300番台科目：「キャリアセミナーB」「ランゲージアーツセミナーA」「ランゲージアーツセミナーB」国語教員養成コース200番台科目：「日本文学史」「漢文学」「日本語文法論Ⅰ」「日本古典文学演習」「書写」「国語科指導法Ⅰ」300番台科目：「国語科指導法Ⅱ」言語表現コース100番台科目：「現代社会の諸問題」200番台科目：「ロジカルシンキング」「クリティカルシンキング」「クリティカルリーディング」「議論ストラテジー」
- (6) 学科科目について、次の必修選択科目を修得していること
 - 【国語教員養成コース】100・200番台科目：「現代社会の諸問題」「ロジカルシンキング」「クリティカルシンキング」「クリティカルリーディング」「議論ストラテジー」より1科目2単位以上200番台科目：「日本語文法論Ⅱ」「日本近代文学演習」から1科目2単位以上300番台科目：「日本古典文学研究」「日本近代文学研究」「日本語史」「日本語学演習」「日本語語彙論」「日本語音韻論」から3科目6単位以上「現代思想と言語」「テクノロジーと言語」「英語で読む日本文学」「広告と言語」「プレゼンテーション技法」「情報編集デザイン」「読み書きの認知と指導」から1科目2単位以上400番台科目：「レトリック探究」「音声表現法研究」「日本語学研究」「言語表現教育研究」「批評理論」「ランゲージアーツセミナーC」「ランゲージアーツセミナーD」「ランゲージアーツプロジェクト」から2科目4単位以上
 - 【言語表現コース】200番台科目：「日本文学史」「漢文学」「日本語文法論Ⅰ」「日本語文法論Ⅱ」「日本古典文学演習」「日本近代文学演習」「異文化コミュニケーション」「世界文学」「メディアと文化表現」から4科目8単位以上300番台科目：「日本古典文学研究」「日本近代文学研究」「日本語史」「日本語学演習」「日本語語彙論」「日本語音韻論」から2科目4単位以上「現代思想と言語」「テクノロジーと言語」「英語で読む日本文学」「広告と言語」「プレゼンテーション技法」「情報編集デザイン」「読み書きの認知と指導」から3科目6単位以上400番台科目：「レトリック探究」「音声表現法研究」「日本語学研究」「言語表現教育研究」「批評理論」「ランゲージアーツセミナーC」「ランゲージアーツセミナーD」「ランゲージアーツプロジェクト」から2科目4単位以上

4 卒業までの単位配分

- 卒業までに必要な単位数は、第1セメスターから第8セメスターまで、合計124単位です。
その内訳は次のとおりです。

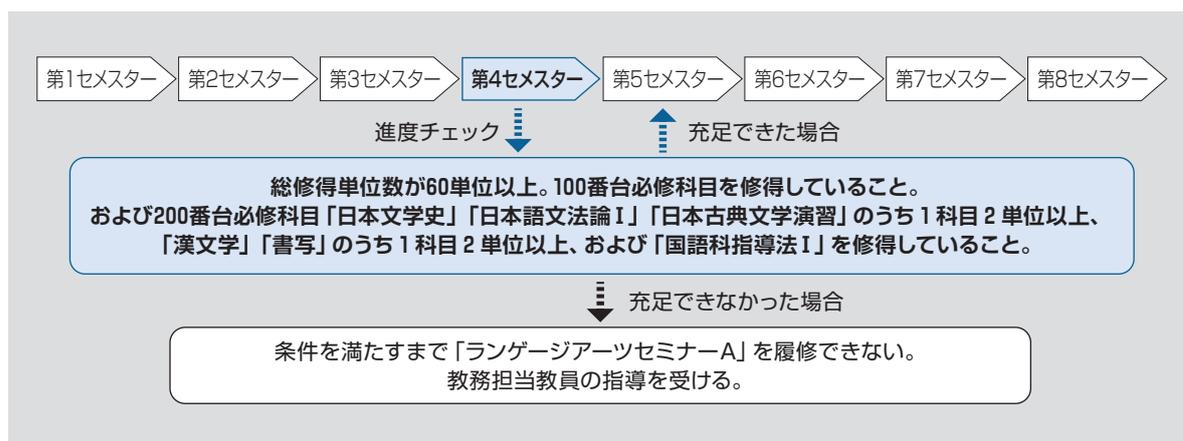
科目群	科目分類	国語教員養成コース	言語表現コース
ユニバーシティ・スタンダード科目	玉川教育・FYE科目 必修	7	7
	人文科学科目群	2以上 (日本語学を含む)	2以上 (日本語学を含む)
	社会科学科目群	2以上	2以上
	自然科学科目群		
	学際科目群		
	言語表現科目	ELF科目 8以上	ELF科目 8単位を含んで 12以上 (日本語科目を除く)
	小計 12以上	小計 16以上	
国語教育学科科目	100番台	必修 6	必修 8
	100・200番台	必選 4以上	必選 8以上
	200番台	必修 16 →14	必修 12 →10
	300番台	必修 6 →8 必選 8以上	必修 4 →6 必選 10以上
	400番台	必選 4以上	必選 4以上
		小計 44以上	小計 46以上
自由選択科目	自学科、他学部、他学科、 ユニバーシティ・スタンダード 科目、単位 互換制度で修得した 他大学の単位	任意	任意
累積修得単位		124以上	124以上

5 警告制度と履修条件（進捗チェック）

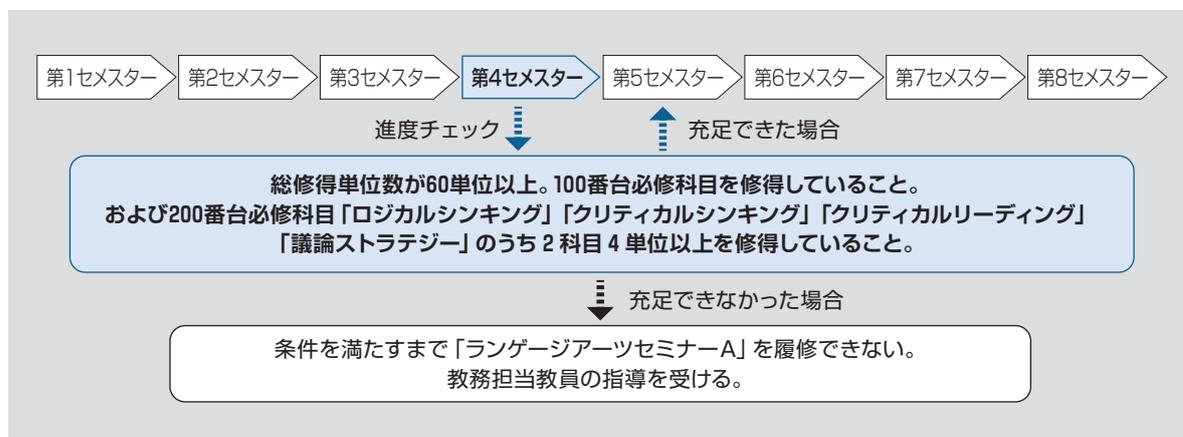
- 本大学では全学部共通する「警告制度」を定め、これを満たせない学生には「警告」が出されます（p.35を参照）。
- 国語教育学科ではさらに、一人ひとりの学生の学修状況が学士課程の修了に向けて適切に進んでいるかをチェックするため、下記の通り、第4セメスターと第6セメスターの終了時に、「履修条件」を満たしているか否かのチェックを行います。
- 履修条件を満たさない場合には、次セメスターの必修科目を履修できないなどの制限が生じますので、十分注意してください。

1 第4セメスター（2年次）終了時における進捗チェック

■ 国語教員養成コース

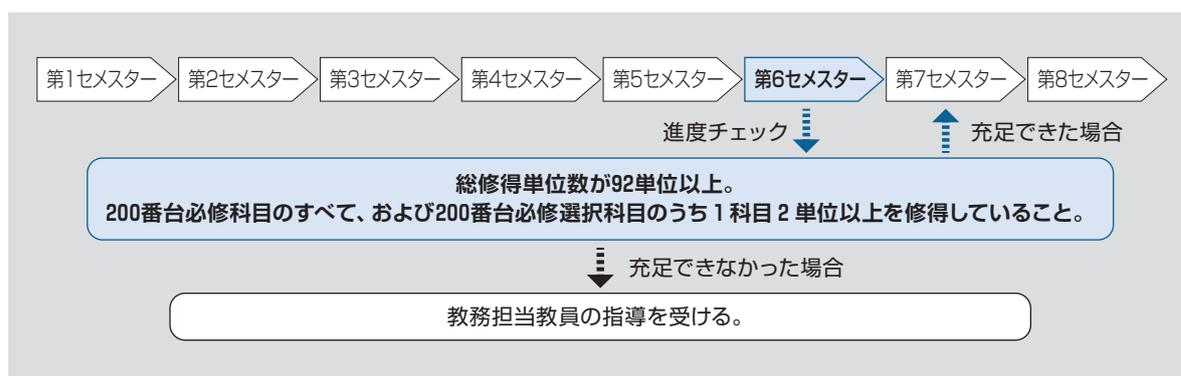


■ 言語表現コース

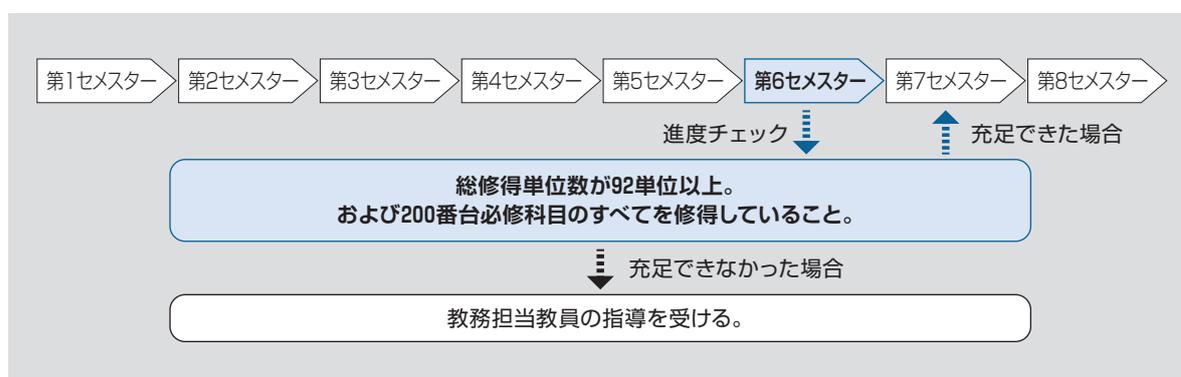


② 第6 Semester（3年次）終了時における進捗チェック

■ 国語教員養成コース



■ 言語表現コース



6 履修上の留意事項

① 免許・資格の取得について

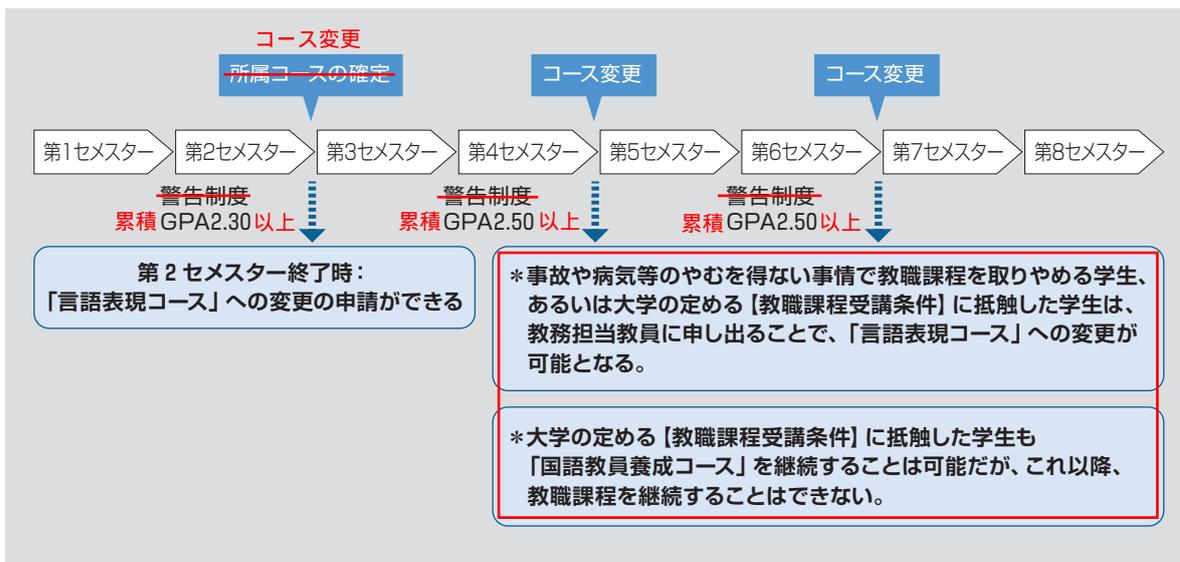
- 国語教員養成コースは、原則として全員が教職課程を受講します。第2 Semester終了時に教職課程受講継続判定を受けて許可された場合は、学科の卒業要件を満たしつつ、免許状取得に必要な科目を履修して単位を修得しなければなりません。『教職受講ガイド』の該当ページを参照し、教職担当教員や教師教育リサーチセンターの指導・ガイダンスを受けて、必要な単位をもらえなく修得できるように履修計画を立てましょう。
- また、教職課程履修基準として、第2 Semester終了時：累積GPA2.30以上、第4 Semester終了時：累積GPA2.50以上、第6 Semester終了時累積GPA2.50以上の基準が設けられています。

② ~~コース変更についての決定・変更について~~

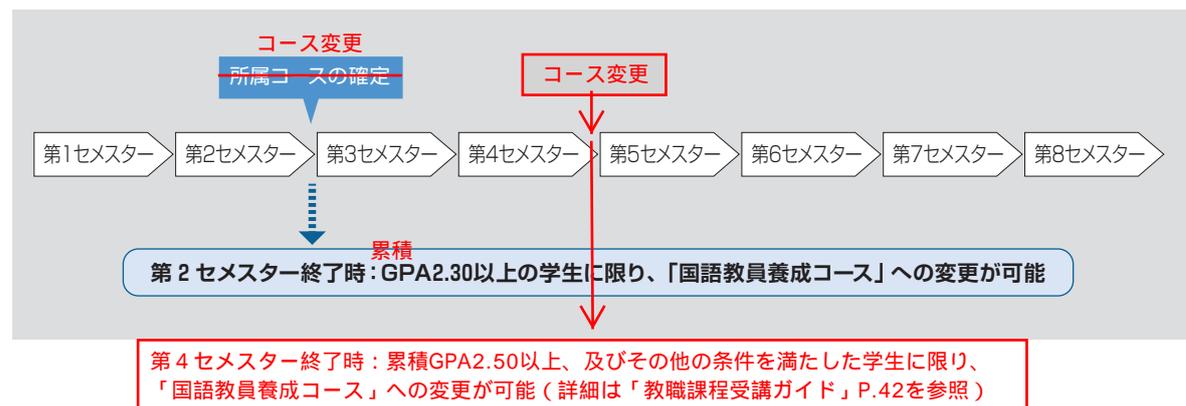
- ~~第2 Semester 終了時に、コースを決定します。その後希望すれば第4 Semester 終了時および第6 Semester 終了時に「国語教員養成コース」から「言語表現コース」への変更が認められます。「言語表現コース」から「国語教員養成コース」への変更は、教職課程科目の履修順序が定まっているため、できません。~~
- 「国語教員養成コース」から「言語表現コース」への変更希望で、事故や病気等のやむを得ない事情で教職課程を取りやめる学生、あるいは学科の定める【教職課程受講条件】に抵触した学生は、教務担当教員に申し出ること、「言語表現コース」への変更が可能となります。~~また、学科の定める【教職課程受講条件】に抵触した学生も「国語教員養成コース」を継続することは可能ですが、以降、教職課程を継続することはできません。~~
コースを変更しない場合でも、教員免許は取得できませんが、「国語教員養成コース」の卒業要件を満たせば卒業は可能となります。

入学時に、コースを決定します。「国語教員養成コース」から「言語表現コース」への変更は、申請により第2 Semester終了時、第4 Semester終了時および第6 Semester終了時に認められます。「言語表現コース」から「国語教員養成コース」への変更は、申請しかつ定められた条件を満たした場合にのみ、第2 Semester終了時および第4 Semester終了時に認められます。（再判定を含む教職課程受講の詳細については「教職課程受講ガイド」P.42を参照）。
また、学科の定める【教職課程受講条件】に抵触した学生は教職課程の受講ができませんが、「国語教員養成コース」を継続することは可能です。（再判定を含む教職課程受講の詳細については「教職課程受講ガイド」P.42を参照）。

■ 国語教員養成コース



■ 言語表現コース



7 取得可能な資格

- 国語教育学科では所定の科目を修得し、また所定の条件を満たすことで、資格を取得することができます。詳細は、本履修ガイドp.221以下を参照してください。